

外観  
ギャラリー側



- 構造体を囲に配置することにより、進行方向に視界が通りにくい、いくつかの壁に細かいスリット状の地窓と高窓を設け、障子のように仕切りながら採光と他人の気配が感じられる利権の利点を壁で表現する。こうすることにより来た人たちに豊かな手の運びと紙の良さを鳥取県の田州和紙をより多くの人に認知してもらおうことができる。また、この施設により和紙に興味を持って購入を目指す人が生まれてくることで後継者不足という深刻な問題にも歯止めをかけることができる。そして空間を壁のみで仕切るため、スムーズな移動が可能になり、作品がより鑑賞しやすくなっている。

- ギャラリーは室内に2か所、屋外に1か所設けている。できるだけ建物全体を回ってもらいたいため一般公開部分の側に設置し、トライアングル状に動線を描ける計画にした。また、それぞれのギャラリーは障子の特色を利用したものとなっており、一つは精選させた構造体を使い直線的で鑑賞しやすいものにし、2つ目は構造体を交差させて一本道でありながら迂回したようなものになっている。3つ目は交差させた構造体の強みに展示物を設置したものを計画した。



休憩スペース  
ギャラリー



•周りの細かい壁の役割

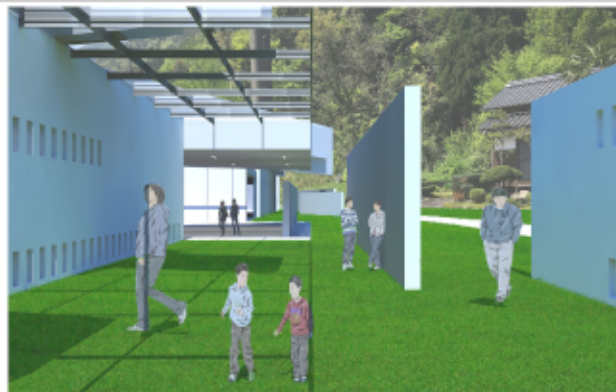
周りの細かい壁は和紙工場の大きくて長い壁の弱さや最初のインパクトが大きくなりすぎた印象を緩和させるための緩衝材の役割を果たしており、来館者により気楽に入ってもらえるように計画した。

また、細かい壁が建物内部の境界を透っているので、車で通ったりある寒い人からは中の様子が見えず、ここが何の建物か気になって中を覗きに来る人が和紙に興味を持ってもらえるようになりやすくなることも鑑みて配置した。

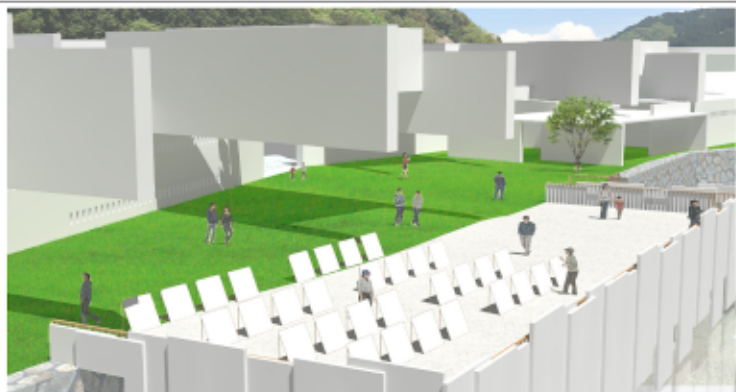


•壁の構造

壁に細かいスリット状の地窓と高窓を設ける。地窓は地面から100mmの所から高さ500mm、幅250mmに設定し、ちょうど障子が見えるよう計画した。高窓は、壁の高さに合わせて設定し、大きさは地窓と同じ寸法とした。これにより、視界を通さずに採光が十分取れるような計画となっている。



工房  
テラス

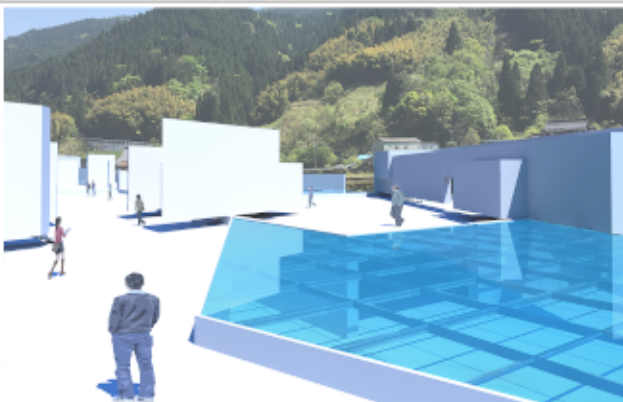


- 製造工程に対応した長いスパンの壁を用いて、レーン状に作業できるように計画した。これにより移動動線を明確化し、いろんな場所を行き来する効力を醸成できる。また、機能性を考慮し作業の効げにならないように構造体の密度を低くし外壁の構造体より壁のスパンを短くすることにより各工程への移動がスムーズに入れるように配慮する。

- 両側の日当たりの良さを生かして天日干しができる乾燥台を十分に設置できるスペースを確保できるテラスを設け、昔ながらの紙漉きを一般の人にも見学してもらえ。また、川の近くに配置することで川さらしをした後すぐ干すことができるので、移動動線を短く済ませることができる。



集合住宅



- 採光条件やプライバシーの観点から、1階の構造体と直行するように2階の壁を配置し、川のある南側の景色が望めるように計画する。また、対になっている壁の高さを変えてより採光を取りやすくし隣の住戸からのプライバシーも守ることができる。そして、住民同士で気軽にコミュニケーションが取れるように共用スペースを設け、互いに距離を高めつつも他愛のない会話をする場所を計画した。

- 住んでいる住業員が天窓を利用して中の様子を確認できたり、内部の採光が不足しているのを補っている。

